

みかみ山

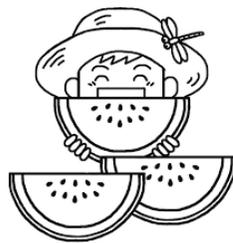
保護者向け図書館通信

2018. 7 野洲高校図書館

○ はじめに

野洲高校図書館では、「生徒自ら学ぶ力を育み、豊かな心を育てる学校図書館」を基本方針としています。教科・学校行事での図書館利用、生徒一人ひとりに合った読書指導、図書委員会活動の活性化に取り組んでいます。

以下、2018年度1学期の動きについてまとめました。



○ 4月～6月の図書館利用状況

- ・開館日数：54日、入館者数：1729人（1日あたりの来館者数：32人）
- ・貸出統計（4～6月合計）：昨年と比べ2倍以上の数になりました。

<今年度>

1年	260冊
2年	289冊
3年	59冊
職員	282冊
合計	<u>890冊</u>

<昨年度>

1年	254冊
2年	0冊
3年	63冊
職員	123冊
合計	440冊



- ・授業利用時間数：29時間

→図書館オリエンテーションをはじめ、古典や応用国語で利用。

美術の授業でも、絵を描く資料集めのために図書館は利用されています。

○ 高体連期間中の「読書の時間」

…以下の本の一部分を読み、感想を書いてもらいました。

1年生：「野洲スタイル」

（本校教員でありサッカー部顧問である山本先生の著作）

2年生：「ディズニーランドであった心温まる物語」

（ディズニーランドの従業員と来園者が織りなす実話短編集）

3年生：「日本一心を揺るがす新聞の社説」

（様々な社会問題が取り上げられた本）



○ 図書委員会の活動

- ・文化祭における壁新聞の展示
（2・3年図書委員）（左写真）
壁新聞を作成し、おすすめの本を紹介。

- ・生徒向け広報誌上でのおすすめ本の紹介（以下広報誌より抜粋）



「暗黒女子」秋吉理香子／双葉文庫

「名門女子校で最も美しくカリスマ性のある女生徒いつみが死んだ」——この1行で「なんで死んだのだろう、誰に殺されたのだろう」と思った。本来、私はミステリ系は難しいのであまり読まない。だが、この本は「面白そう」と思った。読み進めていくと1人1人の物語が作文風になっている。つまり、話によって一人称が変わる。他の小説には無い点だ。1人1人の証言（物語）は思いがけない方向へと進んでいく。いつみの死は“事故死”なのか“他殺”なのか“自殺”なのか……一体なぜあんな“モノ”を持っていたのか……。すべての予想を裏切る黒い結末まで一気読み必至の衝撃作。

※ 裏面→「進路」を図書館から考える

図書館の本(裏面に掲載されている本)はお子様を通じて借りていただけます。



～ 就職編 ～

仕事選びについて



「中学生・高校生の仕事ガイド」進路情報研究会編
中学生・高校生の進路選択の参考になるように、できるだけ多くの仕事を掲載。項目ごとに、仕事の内容、その仕事につくための勉強のしかた、専門学校・大学の選び方、必要な学歴、取得すると有利な資格を紹介。

「新 13 歳のハローワーク」村上龍著

国語や社会、数学など中学生で習う科目から好きな科目を選ぶことにより業種を絞り、興味のある仕事を探すというユニークな一冊。「休み時間や放課後が好き」「何も好きじゃない」という項目もあるため、好きな科目がないという方も安心して自分にぴったりの職業を探すことができます。



「働く」とは何か？



「『働く』の教科書」全日本手をつなぐ育成会編
「特別支援学校」を卒業した 15 人の“先輩たち”の「働く」ようすを紹介。彼らの職業インタビューをはじめ、「働く」ということについての説明や、業種別の職業紹介がわかりやすくなされています。



～ 進学編 ～

大学入試に向けて



「アタマが良くなる合格ノート術」田村仁人著
あなたはノートを 120%活用できていますか？授業のノートをうまくとれない、ノートを作っても成績に結びつかない、ノートを活用して試験勉強をよりパワーアップさせたい… そんな人にお届けする、さまざまな場面で使えるノウハウ満載の 1冊。

「推薦入試・AO 入試」八木暉雄ら著

「推薦入試・AO 入試の概要」「志望理由書・自己推薦書とはどんなものか」などの 6 章構成。各章を読みながら、志望理由書・自己推薦書を書くうえで材料となることを、所々に設けてある「読者のノート」にメモし、最終的にはそれを 1 つの文章にまとめ、評価・点検する。



「大学」について知る



「大学生になるってどういうこと？」樋上一希ら著
大学には入ったけれど、何をどう学べばいい？生活はどう変わる？多くの大学で課題となっている初年次教育。大学生活と学習方法の基礎がわかり、4年間と卒業後のビジョンが描ける、若手教員たちの実践から生まれたテキスト。